

前 書

その昔テレビを見ていると、こんなありそで、なさそな話が放映されていた。その内容はというのは、以下の通りである。仮に主人公を「A」としよう。

Aはとある超高層ビルの38階で下りエレベーターに乗って1階をめざすと、34階から若い外人さんが乗り込んできた。なかなかの好青年で、身長は1m90cmもあろうか。ところがこともあろうに、狭いエレベーターの中で、この外人さんは屁を一発コキおったのである。さすが肉食人種の屁はその濃度が違う。このニオイに必死で耐えていると、この外人さんは30階まで来ると屁の強烈な匂いだけ残して降りていってしまった。臭いのなんのって、まさに窒息しそうな濃度である。Aは思わず顔をしかめたが、屁よりもゲップの方が下品とするお国がらだから、この男はいたってすましたもの。ご免なさいの一言もない。Aは一人この臭気に堪えていると、27階から仕事を終わった若いOL達が4～5人、ガヤガヤと楽しげに話しながら乗り込んで来た。今日は花金、楽しいイベントが待っているのだろう。と、突然会話が止まると静寂な空気が走った。みんな顔をしかめて一斉に、Aの方に視線を向けてくる。Aは一瞬シマッタ！！と思ったが後の祭りである。オレじゃないよ！オレじゃないよ！と叫びたかったがもう遅い。まさにToo late!なのである。ことの顛末を延々と語ったところで、誰も信じてくれそうにない。Aはやむなく次の階でエレベーターを降りたのである。

と、こんな話だったが、そんなことあるわけないよと思っていたある日、現実に全く同様な場面に出くわしてしまった。それで世の中にはいろいろと不運な話があるものと悟って、こんな話を集めてみることにした、というわけである。皆さんの経験と合わせてご一読いただければ幸いである。

この文書はpdfで作成しております。